



←まるで氷ついたシベリアの大河のような矢切の田んぼに張った氷。大寒にはって寒さもいちだんとました。

→二十一日の土曜日はよく晴れたが北風が強かった。

一週間ぶりに矢切の渡しに下りた。この時期、矢切の渡しは土日・祝祭日しか営業していない。

一月十三日に膝関節の手術をしたばかりの舟頭さんとは、二週間ぶりの再会だった。その舟頭さんが開口一番、

「風が吹いてるねえ……」

私はすかさず、

「そうだねえ、北の風、強いね……」

すると舟頭さんが手を東から西に向かつて振りながら、

「そうじゃなくって、牛久のほうから吹いてきてる」

なるほど、そういうことか、とすぐにひらめいた。

今日は土曜日、一月二十一日。大相撲の十四日目だ。大関稀勢の里が一敗でリードしている。横綱の白鵬は二敗で後を追う。

稀勢の里が念願の初優勝に向かってひた走っている。その稀勢の里の出身地が茨城県の牛久市。

つまり、矢切の渡しから見ると東になる。舟頭さんが手を振ったのは牛久方向から風が吹いてきたという意味だ

今週のクマ

→寒々とした天気のもとクマは恨めしそうに陽の当たった対岸を見つめていた。



→下の写真はいっばいに実ったコミカン。右の写真は寒さがましてきてヒヨドリに食い荒らされた。



と、やっと気がついた。

「それにしても白鵬はすごいね」

そういう私に舟頭さんは、

「??????」

「ぼくは、ひねくれてるのかなあ。大相撲全体を白鵬が演出しているような気がしてしょうがないんだ」

「それって相撲ファンじゃないねえ」

「だって、白鵬は相撲ファンが日本人横綱の誕生を待ち望んでいることを敏感に感じてるんだ。そのためには稀勢の里に優勝してもらって、横綱になってもらいたいんだよ」

「??????」

「八日目に白鵬が一敗したじゃない。それも一勝しかしていない荒鷲にだよ。モンゴル人の荒鷲に組ませて押しまくられての負け。そして九日目に目の前で稀勢の里が琴奨菊に負けると白鵬が高安に負ける。十四日目にはモンゴル人の貴ノ岩に組まれて押し出されて負け……」

黙って聞いていた舟頭さんは、

「やっぱり、藤原さんは相撲ファンじゃないよ……」

ともあれ稀勢の里は初優勝した。二十年ぶりに日本人横綱が誕生するのか。